

第2次都立動物園マスタープラン  
多摩動物公園 推進計画

---

令和5年3月  
東京都建設局

# 目次

## 1. 推進計画について

- (1) 推進計画策定の考え方
- (2) 計画の見直しについて

## 2. 多摩動物公園について

## 3. 各園基本方針

- (1) 園の取組の方向
- (2) 目指す姿ごとの方針

## 4. 飼育展示計画

- (1) 飼育展示計画とは
- (2) 飼育展示計画におけるエリア区分と飼育動物の分類
  - 1) 飼育展示計画におけるエリア区分の設定
  - 2) 飼育動物の分類
- (3) 園の飼育展示コンセプト
- (4) エリアごとの計画 ～展示コンセプト・飼育動物・重点的取組～

## 5. 教育普及計画

- (1) 教育普及計画とは
- (2) 教育普及テーマについて
- (3) 園の教育普及コンセプト
- (4) 教育普及テーマごとの計画 ～取組計画・主な実施項目～

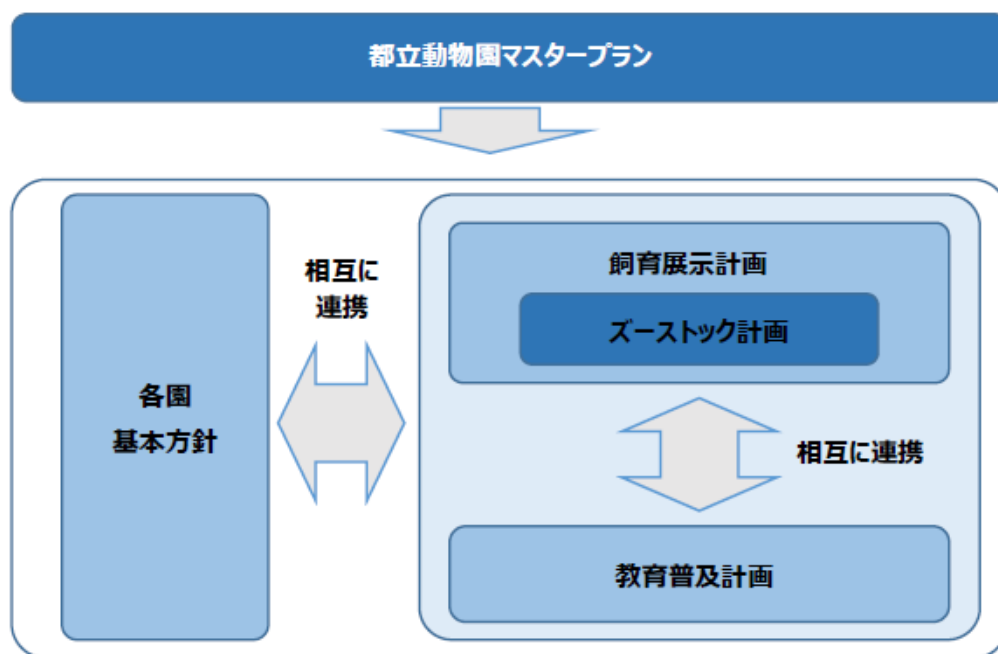
## 1. 推進計画について

### (1) 推進計画策定の考え方

都は「動物園・水族館の持つ4つの機能を強化していくこと」と「持続可能な開発目標(SDGs : Sustainable Development Goals)の達成に寄与すること」という2つの基本的な考え方を踏まえ、令和2年11月に都立動物園の目指す姿と取組の方向性を示した第2次都立動物園マスタープラン（以下、「マスタープラン」という）を策定しました。

マスタープランでは、その下位計画として、各園の取組の方向性や、具体的な内容を取りまとめた「各園基本方針」、「飼育展示計画」、「教育普及計画」を策定し、都立動物園の4つの目指す姿（魅せる・伝える・守る・極める）の実現に向けた取組を進めることとしています。

この度、マスタープラン 第4章「各園の目指す姿と取組の方向」を踏まえ、第2次計画期間(令和3～12年度)中の、多摩動物公園の下位計画を取りまとめ、「多摩動物公園 推進計画」として策定しました。今後、本推進計画の取組を着実に推進していくことで、多摩動物公園におけるマスタープランの目指す姿を実現するとともに、野生動物の保全と環境への理解を促し、人と動物がともに生きていくことのできる地球環境を守り、未来に引き継いでいきます。



マスタープランにおける下位計画(推進計画)の位置づけ ※マスタープラン p.17 抜粋

※ブーストック計画：平成30年10月策定。124種を対象に、希少種の保全や、環境学習の推進、生息域内保全への貢献を図る計画

## （２）計画の見直しについて

本計画は、社会情勢や、国内外の動物管理計画などの変化を踏まえ、中間年度を目途に見直しを検討します。

## 2. 多摩動物公園について

多摩動物公園は、戦後、恩賜上野動物園に次ぐ第二の動物園構想がもちあがり、恩賜上野動物園の分園として昭和 33(1958)年に開園しました。当初約 28ha だった敷地面積は、現在は約 60ha に拡張されています。

広大な敷地と丘陵地の自然を活用し、ダイナミックな展示と野生動物の繁殖を推進する動物園を目指し、可能な限り、檻や柵の使用を控えた無柵放養式展示を行うとともに、豊かな自然の中で環境学習機能を強化しています。また、大型野生動物の繁殖基地としての役割も持ち、単独飼育や群れ飼育など、種の特性に合わせた飼育管理を行い、多くの野生動物の繁殖に寄与してきました。さらに、バイオテクノロジーを応用した種の保全に取り組み、都立動物園における野生動物保全の拠点ともなっています。

### 3. 各園基本方針

#### (1) 園の取組の方向

マスタープランで定めた多摩動物公園の目指す姿（マスタープラン p.98 参照）を踏まえ、園の今後の取組に対する考え方を「園の取組の方向」として以下のとおり決めました。

- 多摩丘陵の豊かな自然を生かした規模及び施設のスケールメリットを生かし、様々な姿や生態をもつ生き物の多様性を伝えるとともに、野生動物や自然を体感できる体験型フィールドとしても展開していきます。
- アジア、アフリカ、オーストラリアの3つの地域の動物や、昆虫園といった特徴ある施設を有し、「アリからゾウまで」幅広い飼育種のいる強みを活かし、種を超えた動物の関わり合いや生物多様性など、様々な情報を発信していきます。
- 高い飼育繁殖技術の蓄積と、野生生物保全センターにおける生物工学技術の活用により、国内における希少動物の繁殖基地及び保全活動の推進拠点としての役割を担っていきます。
- 園内の自然環境や、広大な敷地を活用し、動物の生態と福祉に配慮した飼育展示方法や施設により、ダイナミックな展示と繁殖の推進を実現していきます。

#### (2) 目指す姿ごとの方針

「園の取組の方向」に基づき、都立動物園の目指す姿（マスタープラン p.15 参照）ごとの視点から整理したより具体的な方針を、「目指す姿ごとの方針」として決めました。ハード面とソフト面の両方の視点を踏まえることで、目指す姿の効果的な実現を目指します。

#### 魅 せ る

- 多摩丘陵の自然と広い敷地を活かし、群れによる展示や生態に基づいた飼育環境によるダイナミックな展示と、アニマルウェルフェア※（動物福祉）（以下、「アニマルウェルフェア」という）に配慮した世界レベルの展示を行います。
- 動物の生き生きとした姿を伝える展示方法を追究するとともに、ガイドや環境学習プログラムの充実を図ります。
- 自然豊かで起伏に富んだ園内環境を楽しみながら動物たちを巡る、多摩動物公園ならではの楽しみ方を提案します。
- 案内・教育普及サインの多言語化、ユニバーサルデザインの採用、シャトルバスの運行方法等の見直しや、雨天や猛暑対策を通して、多様な来園者にやさしい快適な観覧環境を提供します。また、魅せるためのノウハウを共有し、職員の意識向上を図ります。

## 伝 え る

---

- 野生動物のおかれた状況や、希少動物及び生物多様性を守っていくための取組、生息地で暮らす人々の文化なども伝え、多面的な理解を促していきます。
- 園内のフィールドを利用したプログラムやガイドツアー・キーパーズトーク、ボランティア活動の充実などとともに、デジタル技術の活用など新たな手法による教育普及活動を展開していきます。
- 家族向けのイベントの開催、各年齢層や学習やレクリエーション目的などニーズに合わせた新規プログラムを提供します。
- 園内や近郊の里山環境を活用して、身近な環境や動植物について情報を発信し、SDG s、生物多様性の理解につなげていきます。

## 守 る

---

- ブーストック種や協会保全対象種の飼育繁殖を通じた希少な野生生物の域外保全に注力するとともに、その域内保全に貢献するため、関係省庁や域内保全に取り組む団体や機関、研究者と連携し、希少な野生生物の域内保全に貢献していきます。
- 園内の里山環境および、動植物種の保全に積極的に取り組み、それらを活かしたフィールドプログラムでの環境学習を実践していきます。
- 飼育展示計画に基づく種の選択と集中、それにより生じたスペースを活用し、動物の生態にあった施設への改修を進めるとともに、環境エンリッチメントなどの取組を強化し、動物が生き生きと暮らせる動物園を作ります。
- 新型コロナウイルスなどの新興感染症や人獣共通感染症等への対策を強化し、来園者や飼育動物の安全と健康を守っていきます。

## 極 め る

---

- 「生息域内保全への貢献」、「生息域外保全の推進」「バイオテクノロジーの活用」を柱として、野生生物保全センターが、都立動物園の保全活動の中心としての機能を果たしていきます。
- 大学や保全・研究機関などと協力・連携し、最新情報や先端技術を共有するとともに、それらの情報を積極的に発信していきます。
- 群れ飼育など、多様な展示形態を通じて飼育技術の向上や、繁殖実績の蓄積に取り組むとともに、それらのノウハウを継承していきます。

---

※ 一般に「個体が幸せであると主観的に感じる状態」<sup>1</sup>とされているが、動物の主観的状态を理解するのは困難であるため、本計画では「その動物にとって、科学的に妥当な飼育管理」と定義する。

<sup>1</sup> Hosey, G., Melfi, V. and Pankhurst, S. (村田浩一, 楠田哲士監訳, 2011): 動物園学, 221. 文永堂出版, 東京

## 4. 飼育展示計画

### (1) 飼育展示計画とは

「目指す姿ごとの方針」のうち、主に「守る」、「極める」で定めた方針に基づき、「何のために、その種を飼育し、展示し、どのように活用し、何を伝えていくのか」を定めたものが飼育展示計画です。園のエリア区分や動物舎ごとに、展示コンセプトを設定し、それに基づいてどの種を飼育し、主にどのような取組を重点的に行っていくのかを記載しています。

飼育展示する動物を、その意義や必要性に応じて整理し、それに沿った取組を推進することで、限られた施設や資源を有効に活用し、持続可能な飼育展示や野生動物保全への貢献、教育普及効果の向上を目指します。

### (2) 飼育展示計画におけるエリア区分と飼育動物の分類

#### 1) 飼育展示計画におけるエリア区分の設定

飼育展示計画におけるエリア区分は、マスタープランに記載されたエリア区分を基本として設定しています。なお、展示コンセプトや飼育動物に応じて一部、小区分を設定しています。

エリア区分及び小区分



場所	エリア区分	小区分
北園	アフリカ園エリア	
南園	オーストラリア園エリア	
	アジア園エリア	アジア園Ⅰ
		アジア園Ⅱ
		アジア園Ⅲ
	正門・管理エリア	教育普及施設
		保全繁殖施設群
	昆虫園エリア	



## 2) 飼育動物の分類

エリア区分や動物舎ごとの展示コンセプトを踏まえ、全ての飼育動物について、長期的な視点で飼育動物ごとに保全の優先性、展示効果、教育普及効果、アニマルウェルフェアの確保、搬出入の見通しといった観点から、その意義や必要性を検討し、以下の4つのカテゴリーに分類しました。

なお、野生での生息状況や飼育管理技術の向上など状況の変化により、必要に応じて飼育動物の分類を変更していきます。

- ・優先種：優先的に保全・繁殖に取り組む必要性、または展示・教育普及上の意義が高く、特に積極的に飼育展示に取り組むべき種
- ・維持種：単性飼育や必要に応じた繁殖など、それぞれの種の状況に即した管理を行いながら、長期的に継続して飼育展示を行う必要がある種
- ・検討種：新規導入を検討する種又は飼育展示の終了も含め検討を要する種
  - ①展示効果や保全、教育普及上の意義などが見込まれ、今後新たな導入について検討する種
  - ②搬出入の見通しや、アニマルウェルフェアの確保などの観点から、今後の継続的な飼育展示について終了することも含め検討する必要がある種
- ・断念種：搬出入の見通しや、アニマルウェルフェアの確保などの観点から今後、継続して個体を維持していくことが困難であり、順次飼育展示を終了※していく種

---

※ 将来的な繁殖可能性や飼育スペースの確保、個体の年齢など様々な要因を考慮し、園での終生飼育や、他施設への搬出など、それぞれの個体に適した方法を検討した上で、それに応じた適切な時期に飼育展示を終了していく。

### (3) 園の飼育展示コンセプト

多摩動物公園における飼育展示の考え方を、以下のとおり「園の飼育展示コンセプト」として定めます。

- 
- 園内の広い地形を活用した群れ飼育や、樹林などの自然を生かした展示など、動物本来の姿が観察できる飼育展示をするとともに、アニマルウェルフェアにも配慮した飼育施設により、生態や行動を引き出し、生物進化や生物多様性を伝えていきます。
  - 昆虫から大型哺乳類まで、多種多様な飼育種の展示を通じて、自然環境への興味を喚起し、環境学習の機会を提供していきます。
  - 生息域内保全と連携を図りながら、希少動物の保全の重要性を伝えるとともに、これまでの飼育繁殖技術の知見を活かして、生息域外保全を推進していきます。
  - 野生生物保全センターが中心となって、都立動物園における生物学技術の活用を推進するとともに、これらの技術の蓄積と継承を行い、希少動物の繁殖に取り組んでいきます。
-

#### （４）エリア区分ごとの計画 ～展示コンセプト・飼育動物・重点的取組～

##### 【オーストラリア園エリア】

（主な施設）

コアラ館、カンガルー・エミュー舎、ワライカワセミ舎、ワラビー舎、ハクビシン舎

##### ▶飼育展示コンセプト

- コアラ、カンガルー、タスマニアデビルなどの有袋類を中心に、独特の生態や形態を持つオーストラリア地域特有の生物を飼育展示し、生物進化の不思議さと、生物多様性を伝える
- 有袋類が持つ独特の繁殖や、採食生態の展示を通じて、オーストラリア地域の自然環境への興味を喚起し、保全への理解を促進する

##### ▶主な飼育動物

優先種：コアラ、タスマニアデビル

維持種：アカカンガルー、パルマワラビー、シマオイワラビー、フサオネズミカンガルー、フクロモモンガ、エミュー、ワライカワセミ、ガマグチヨタカ

検討種：①なし

②フクロギツネ、ケナガワララー、ハクビシン、カササギガン

断念種：なし

##### ▶重点的取組

- JAZA※の種管理計画等、各種繁殖計画に基づいたコアラ、フサオネズミカンガルーなどの繁殖推進
- コアラやカンガルーの老齢個体ケアなど、アニマルウェルフェアに配慮した飼育環境の構築
- タスマニアデビルの国際保全事業への参画と情報発信、普及啓発



コアラの親子



タスマニアデビル

---

※ JAZA：公益社団法人日本動物園水族館協会

## 【アジア園エリア】

### ▶アジア園 I

(主な施設)

アジアの山岳、アジアの平原、オランウータン・テナガザル舎、アムールトラ舎、トナカイ・ムフロン・タール・シフゾウ舎

### ▶飼育展示コンセプト

- アジアの山岳、平原から熱帯雨林まで、多様な生息環境を再現し、それらの環境に適応した動物を飼育展示し、体のつくりや行動、生態など動物本来の姿を観察できる場を提供する
- アジアの多様な環境に暮らす動物や、人目を惹く動物など幅広い飼育種を通じて、自然環境と生物のつながりについて興味を引き起こし、保全の必要性について知るきっかけを提供する

### ▶主な飼育動物

優先種：ゴールデンターキン、シセンレッサーパンダ、ユキヒョウ、ヨーロッパオオカミ、モウコノウマ、ボルネオオランウータン、アムールトラ

維持種：在来馬（北海道和種）、ムフロン、ヒマラヤタール、ニホンカモシカ（日本産動物エリアでの飼育も検討）

検討種：①なし

②トナカイ、シフゾウ、シロテテナガザル

断念種：なし

### ▶重点的取組

- JAZA の種管理計画やブーストック計画等に基づき、他の飼育園と連携したユキヒョウ、ボルネオオランウータンなどの健全な飼育個体群の形成
- ボルネオオランウータンの生息地保全活動に関する情報発信



ユキヒョウの親子



ボルネオオランウータンの親子

## ▶アジア園Ⅱ

(主な施設)

日本産動物飼育舎、キジ・ヤケイ舎、ソデグロヅル舎、ノウサギ舎、インコ舎、猛禽フライングケージ、フクロウ舎

## ▶飼育展示コンセプト

- 日本とアジアの森林や、里地に生息する動物や鳥類を中心に飼育展示し、様々な姿や生態を持つ生物進化や、生物の多様性に興味を抱かせる
- 園内の地形、樹林を生かし、日本の里山から奥山にかけての森をイメージした展示を通じて、自然環境への関心を引き出し、環境保全について知るきっかけを提供する
- 園入口に近い立地を生かし、親しみのある動物を展示し、来園者の楽しさや、わくわく感を醸成させる

## ▶主な飼育動物

優先種：ソデグロヅル、ニホンイヌワシ

維持種：タヌキ、ムササビ、カヤネズミ他ネズミ類、キュウシュウノウサギ、トウホクノウサギ、ニホンイタチ、ヤマネ、ニジキジ、キジ、カラスバト、アカガシラカラスバト、フクロウ

検討種：①シマフクロウ

②ニホンザル、ニホンツキノワグマ、エゾユキウサギ、スバルバルライチョウ、コジュケイ、ウズラ、イワシャコ、カリガネ、ベニコンゴウインコ、ルリコンゴウインコ、ヒメコンドル、クマタカ、シロフクロウ

断念種：なし

## ▶重点的取組

- 日本やアジアに生息する、多様な動物の計画的導入による展示の維持
- 生態系の頂点に立つ猛禽類の、生態や特徴を引き出す展示
- JAZA の種管理計画やブーストック計画に基づいた、他園と連携したソデグロヅルやニホンイヌワシ等の絶滅危機にある希少種の繁殖及び生息域外保全の取組



ソデグロヅルの親子



ニホンイヌワシ

## ▶アジア園Ⅲ

(主な施設)

アジアの沼地、水鳥池、モグラのいえ、カモ池、アジアゾウのすむ谷

## ▶飼育展示コンセプト

○アジアの湿地帯に生息する、さまざまな動物を飼育し、体のつくり、行動、生態など種の特性を観察できる展示を行う

○カモ類やガン類など水辺の鳥や、日本に暮らす動物など、幅広い動物種の暮らしを園内の地形、樹林を生かした展示を通して、繁殖や保全の取組を紹介する

## ▶主な飼育動物

優先種：マレーバク、インドサイ、アジアゾウ

維持種：スイギュウ、コツメカワウソ、アブラコウモリ、アズマモグラ、トウキョウトガリネズミ、オオアシトガリネズミ、ニホンコウノトリ、ナベコウ、タンチョウ、クロトキ、クロツラヘラサギ、ソリハシセイタカシギ、サカツラガン、インドガン、オシドリ、ツクシガモ

検討種：①ユーラシアカワウソ

②ムラサキサギ、アマサギ、コクガン、カルガモ、マガン、バン、オグロシギ、カイツブリ、ミヤコドリ、ヒシクイ、マガン、コウベモグラ、カワネズミ

断念種：なし

## ▶重点的取組

○JAZAの種管理計画やズーストック計画に基づいた、他園と連携したインドサイ、マレーバクの繁殖推進

○アジアゾウの特徴的な体のつくりや、群れでの行動、生態を観察できる展示

○ガン・カモ類の多様性や、生態の違い、動物の進化などに関心を抱かせる展示種の維持と、解説の充実

○モグラの仲間の繁殖生理の解明と、繁殖技術の確立及び展示方法の更なる改良



モグラのいえ



アジアゾウのすむ谷



## 【正門・管理エリア】

### ▶教育普及施設

#### （主な施設）

モルモット舎

### ▶飼育展示コンセプト

○モルモットとのふれあいを通して、生き物の命の大切さや尊さを伝える

### ▶主な飼育動物

優先種：テンジクネズミ

維持種：なし

検討種：①なし

②アナウサギ

断念種：なし

### ▶重点的取組

○感染症対策やアニマルウェルフェアに配慮した、新たなモルモットふれあいプログラムの実践と改善



モルモットの新しいふれあいプログラム「おしえて！モルモット博士！」

## ▶保全繁殖施設群

### (主な施設)

新トキ舎、トキ舎、新コウノトリ舎、クロツラヘラサギ舎、育雛舎、繁殖ケージ A（非公開トキ繁殖用）、猛禽舎（フライングケージ）、猛禽繁殖ケージ、ウマ上鳥舎、サイ上鳥舎

## ▶飼育展示コンセプト

○希少動物を飼育、繁殖させ、個体群を維持するとともに、野生生物保全や生息地の環境保全の大切さを伝え、生息域外保全に取り組む。また、飼育繁殖技術を活用した生息域内保全への協力を行う。

## ▶主な飼育動物

優先種：トキ、ホオアカトキ、クロツラヘラサギ、アカガシラカラスバト、コサンケイ、ニホンイヌワシ

維持種：ナベコウ、ニホンコウノトリ、タンチョウ、シロトキ他トキ類、インカアジサシ、ユリカモメ、ワシミズク、ウズラ、セキショクヤケイ、アオバト、インドガン、インドクジャク、ニホンキジ

検討種：①なし

②ホオジロガモ、ヨシガモ、ウミネコ、セグロカモメ（亜種不明）、イワシャコ、ヒメウズラ、キジ、オジロワシ、オオヅル、マナヅル、マガン他ガン類、チョウゲンボウ、ハチクマ

断念種：ハダダトキ、カオグロトキ、オーストラリアイシチドリ

## ▶重点的取組

○トキなど希少鳥類の遺伝的多様性に配慮した繁殖と、人工繁殖技術の開発・向上

○JAZA のコウノトリ種管理計画やブーストック計画に基づいた、飼育繁殖の継続と、他園や関連団体との連携

○アカガシラカラスバトなどの保護増殖事業等に基づく、生息域内保全事業への技術協力



トキの親と巣立った雛



コウノトリの親子



## 【アフリカ園エリア】

### （主な施設）

キリン舎、アフリカゾウ舎、フラミンゴ舎、ライオン園、チーター・サーバル舎、チンパンジー舎

### ▶飼育展示コンセプト

- アフリカの原野を思わせる雄大な風景で、キリンの群れやシマウマなど草食獣の混合展示、フラミンゴが群れで羽ばたく姿などで入園者を魅了する。また、行動、生態など種の特徴を引き出す展示により、アフリカの野生動物の多様性を伝える
- サファリ形式によるライオンの展示に加え、楽しく学べる解説など、ライオンについての情報発信基地としての役割を担う

### ▶主な飼育動物

優先種：キリン、アフリカゾウ、チンパンジー、ライオン、チーター

維持種：シロオリックス、グレビーシマウマ、サーバル、モモイロペリカン、ヨーロッパフラミンゴ、アカハシコガモ、サーバル

検討種：①ダチョウ

②なし

断念種：なし

### ▶重点的取組

- アフリカゾウのブーストック計画に基づいた繁殖推進
- サバンナエリアにおける展示種数と、遺伝的に健全な個体群の維持
- ライオンの新たな群れづくりと、その安定的な維持管理
- チーター、サーバルの特性を生かした展示手法の実現



ライオン園での情報発信



キリン舎

## 【昆虫園】

### （主な施設）

生態園、本館

#### ▶飼育展示コンセプト

- 多様な昆虫類の展示を継続することにより、昆虫やその生息環境などについて興味を持って学べる機会を提供し、培った飼育・繁殖・展示技術を活かして、生物多様性保全に貢献する
- 標本・模型の展示や、昆虫を間近で観察したり触察できるコーナー等、生体展示だけでなく様々なツールを用いて、楽しみながら昆虫について学ぶ場を展開する
- 大温室で、通年多くのチョウの飛ぶ姿をみることができる他、身近な昆虫や里山の生物、南西諸島などに生息する希少な生物を飼育展示し、昆虫や昆虫に関係の深い生物の生態や、環境を学ぶ

#### ▶主な飼育動物

優先種：オガサワラシジミほかチョウ類、アナカタマイマイ、タガメ、ゲンゴロウ、ゲンジボタル、ヘイケボタル、ハキリアリ、リチャーズヒカリキノコバエ、トノサマバッタ、カブトムシ、アズマヒキガエルほか日本産カエル類等

維持種：ヤエヤママダラウマ、タイワンクツワムシ、ダイトウクダマキモドキ、ベニモン・シロモンオオサシガメ、ツダナナフシ、オキナワトガリナナフシ 等

検討種：①なし

②ヘラクレスオオカブトほか外国産コウチュウ類

断念種：オオコノハギス

#### ▶重点的取組

- 年間を通じた多様な昆虫の展示種維持
- 小笠原固有種の保護増殖事業やブースtock計画に基づいた、生息域外保全技術の確立と普及啓発
- タガメやゲンゴロウ等の、国内の希少昆虫類の飼育展示と環境学習



小笠原固有種のアナカタマイマイ



水生昆虫コーナーの展示水槽

## 本計画に該当する確認指標・具体的な確認項目及び目標値一覧

	確認指標	具体的な確認項目	10年目目標値 (令和12年度)
取組 1	来園者の視点で常設展示や施設の魅力が向上した	展示改善の実施件数	190件 <sup>※1</sup>
	魅力的なプログラム、イベントが開催されている	利用者アンケートの調査結果	3.3
取組 2	多くの来園者が魅力を感じて訪れる施設になっている	年間来園者数	700万人 (4園合計 <sup>※2</sup> )
	多様な来園者を呼び込む取組がなされている	Twitter投稿件数	— <sup>※3</sup>
取組 3	誰もが快適に観覧できる環境を提供している	快適環境に向けた園内施設の維持管理実施件数	1,800件 <sup>※1</sup>
	来園者が満足している	利用者アンケートの調査結果	3.6
取組 5	多くの方に積極的に都立動物園や野生動物の情報を発信している	東京ズーネット投稿件数	180件
	園内外でICTなどの先端技術を活用した情報発信がされている	動画新規配信件数（ズーネットBB、YouTubeチャンネル）	1800件 <sup>※1</sup> (4園合計 <sup>※2</sup> )
取組 6	飼育職員による情報発信が強化されている	キーパーズトークの実施件数	500件
	動物園を案内するガイドツアーのプログラムが充実している	ガイドツアーの実施件数	190件
取組 7	動物をテーマにした特設展・企画展が充実している	特設展・企画展の実施件数	10件
	東京都(伊豆諸島・小笠原諸島含む)に分布する野生動物に関する情報発信が強化されている	東京都に分布する野生動植物に関するズーネット投稿件数	110件 <sup>※1</sup> (4園合計 <sup>※2</sup> )
取組 8	園外のフィールドにおいて動物の魅力を伝えるプログラムを実施し、身近な野生動物への理解を促している	フィールドプログラムの実施件数	3件
	来園が困難な方などへの環境学習プログラムが充実している	団体プログラムの実施件数及び葛西臨海水族園の移動水族館の実施回数	15件
取組 9	将来の保全の担い手となりうる人材を育成している	教員セミナーの実施件数	4件
	教育的な効果が高い団体指導プログラムを実施している	学校団体向けプログラムの実施件数	200件
取組10	ボランティアの育成が進んでいる	ボランティア対象の研修会の実施件数	7件
	ボランティアとの協働による教育活動が行われている	ボランティアによる教育活動の実施件数	550件
取組11	希少種の飼育管理を適正に行い、繁殖が推進されている	国内外血統登録対象の繁殖種数	27種 <sup>※1</sup>
	多様な種を飼育し、飼育個体の情報を適正に管理している	国内外血統登録対象の飼育種数	37種
取組12	計画的な飼育展示に向けた取組が進んでいる	飼育展示計画に基づいた飼育種数	134種
	種の保存のために繁殖貸借(ブリーディングローン)が行われている	繁殖貸借（ブリーディングローンの実施件数）及び保護増殖計画における動物受入実施件数	160件
取組13	ズーストック種の繁殖が進んでいる	ズーストック計画で計画どおり繁殖に成功した種数	124種 <sup>※1</sup>
	ズーストック計画に基づき対象種が適切に維持管理されている	ズーストック種における「飼育繁殖」「保全情報」「普及啓発」の分野において、適切に推進されている取組数	378 <sup>※1</sup>
取組14	管理技術の向上により、動物を安全かつ健康的に飼育する環境が整っている	ハズバンダリートレーニングの到達度	— <sup>※3</sup>
	飼育動物の選択肢を増やし、正常な行動を引き出し、健康的に飼育する取組が進んでいる	展示施設におけるエンリッチメントの取組件数	— <sup>※3</sup>
取組15	環境省の保護増殖事業計画対象種の保全に貢献している	種の保存法に基づく保護増殖事業計画の確認を受けている種数	13種 (5園合計 <sup>※4</sup> )
	生息地における保全活動や環境学習活動が推進されている	生息域内保全に貢献した活動の実施件数	20件 (4園合計 <sup>※2</sup> )
取組16	飼育・繁殖・環境学習等の技術継承のための場が用意されている	園内の研究会実施件数	9件
	飼育・繁殖・環境学習等の技術や研究成果が広く公表されている	研究成果の公表件数	100件 <sup>※1</sup>
取組17	大学・研究機関との共同研究により新たな知見が得られている	共同研究の実施件数	140件 <sup>※1</sup>
	野生動物保全の取組の必要性を広く発信している	講演会・シンポジウムの実施件数	8件
取組18	飼育繁殖に生物工学技術が活用されている	DNA分析、ホルモン測定の実施種数	70種 (5園合計 <sup>※4</sup> )
	動物園の個体群の維持に生物工学技術が活用されている	配偶子の凍結保存及び使用件数	610件 <sup>※1</sup> (5園合計 <sup>※4</sup> )
取組19	国内外の動物園・水族館、大学、研究機関とのネットワークが強化されている	国内外の動物園・水族館、大学、研究機関等との協定締結件数	10件 (4園合計 <sup>※2</sup> )
	飼育繁殖技術や展示の魅力向上のために、国際的な連携が進んでいる	海外との連携の中で行われた、会議・学会等への参加件数、動物交換、研修などの実施件数	4件
取組20	野生動物保全活動への支援が行われている	(公財)東京動物園協会の野生生物保全基金による年間助成件数	10件 (4園合計 <sup>※2</sup> )
	動物園が所有する野生動物を研究に活用することで野生動物の保全に貢献している	研究材料の提供件数	230件 <sup>※1</sup>

※1 10年目までの累積件数

※2 建設局所管の都立動物園・水族園

※3 新たな取組や、過去の十分な実績値の記録がないなど、現時点で適切な目標値の設定が困難な項目。取組状況を検証した上で目標値を設定する。

※4 建設局及び環境局所管の都立動物園・水族園

## 5. 教育普及計画

### (1) 教育普及計画とは

「目指す姿ごとの方針」の、主に「魅せる」、「伝える」で定めた方針に基づき、どのような環境学習や利用促進などの取組を行うかを定めています。園の特色に沿った園内プログラムや展示を行うために、飼育展示計画で定めた展示コンセプトや取組とも関連する内容とし、両計画を相互に連携するものとして位置付けています。

策定にあたっては、(公財)東京動物園協会が令和2(2020)年1月に策定した教育普及事業方針を踏まえた内容としています。

本計画により、全ての来園者が動物園・水族館に魅力を感じ、楽しみながら野生動物や保全について知ることができる取組の実施を目指します。

### (2) 教育普及テーマについて

教育普及計画では、動物園・水族館における教育普及の取組内容を、①～⑩の分類（以下、「教育普及テーマ」という）し、これら教育普及テーマごとに、取組計画と主な実施項目を記載しています。

教育普及テーマ	
【いつでも楽しく学べる場】	① 定例の教育普及プログラムの強化
	② 動物と間近に接する体験（動物介在教育）の充実
	③ 展示での学びのサポート強化
【誰もが楽しめる場】	④ 集客力のある教育普及プログラムの強化
	⑤ 長期的で深い学び、また専門性の高い学びの充実
	⑥ 誰も取り残さない教育普及活動の推進
【動物の未来を考える場】	⑦ 環境学習プログラムの充実とブーストック種を活用した情報発信の強化
【学校での学びをサポートする場】	⑧ 学校向けの動物観察プログラム・キャリアプログラム・各種教材の充実
【多様なネットワークのハブとなる場】	⑨ ボランティアとの協働を推進、地域との連携強化
【情報発信の拠点となる場】	⑩ 多様な情報発信ツールを利用した効果的な情報発信

### (3) 園の教育普及コンセプト

多摩動物公園の教育普及計画で目指す方針を、以下のとおり「園の教育普及コンセプト」として定めます。

- 
- 多摩丘陵の豊かな自然や広大な展示場、形態も生態も多様な展示生物を生かし、個々の動物の情報だけでなく、それらの生息環境、文化など多面的な学びを様々なプログラムで提供します。
  - アジア、アフリカ、オーストラリアの3つの地域の動物展示、昆虫園での昆虫展示といった幅広い展示種を生かし、生態系のなかでの動物の関わり合いや生物多様性の重要性を、オンラインも含め様々な手法を用い情報発信します。
  - 園内の自然環境だけでなく、近隣の七生公園等の自然環境も生かしたフィールドプログラムを推進し、その豊かな自然や立地を生かした教育活動を行います。
  - 都立動物園における保全活動の拠点となる野生生物保全センターを中心に生物多様性や保全活動の重要性を伝える保全教育にも力をいれていきます。
-

#### **（４）教育普及テーマごとの計画 ～取組計画・主な実施項目～**

##### **【いつでも楽しく学べる場】**

動物園・水族園を訪れる人々がいつでも楽しく学べる場であるために、園内で実施する定例の教育普及プログラムや、動物と間近に接する体験を提供する教育普及活動を強化します。また展示の一部である展示サイン、さらに企画展・特設展、セルフで楽しめるクイズシートなど、プログラム等に参加できない来園者にも常に新たな学びを提供します。

##### **① 定例の教育普及プログラムの強化**

###### **▶取組計画**

来園者がいつ来ても楽しく学べるように、定例の動物解説員のガイドツアーやボランティアのスポットガイドを充実させ、異なる地理的分布・形態・生態をもつ幅広い動物種の展示を生かし、観察を通した学びにつなげます。

###### **▶主な実施項目**

- 動物解説員によるガイド
- キーパーズトーク
- ぱくぱくタイム（給餌の様子を観察しながら、飼育担当者による動物ガイド）

##### **② 動物と間近に接する体験（動物介在教育）の充実**

###### **▶取組計画**

モルモットを介し動物の姿を体で感じる体験、身近な存在である昆虫と接する体験を提供し動物や自然への興味につなげます。また、園内の植物や昆虫のガイドをとおり、身近な自然への気づきを広げます。なお、ふれあいプログラムはアニマルウェルフェアへの配慮を前提として実施します。

###### **▶主な実施項目**

- モルモットふれあいコーナーでのプログラム
- 昆虫ふれあいコーナー
- 家畜馬ふれあいイベント
- 園内の自然を活用したプログラム（初心者野鳥観察会・ホタル観察会・昆虫観察会）

### ③ 展示での学びのサポート強化

#### ▶ 取組計画

展示での基本的な情報発信ツールである種ラベル・解説サインについては、その種の危機的な状況等、記載内容を充実させ更新します。ウォッチングセンター、昆虫園では、企画展・特設展を定期的に行き、動物の生息環境や文化的背景など、多面的な情報発信を強化します。また、セルフで動物の観察を楽しめるワークシートやクイズシートを充実させます。

#### ▶ 主な実施項目

- 各展示種ラベル、解説サインの更新
- ウォッチングセンター特設展示
- 昆虫園企画展示
- かんさつシート
- ウォッチングセンター身近な生きものの展示
- 自然観察ガイド「たまたま発見カード」



昆虫園特設企画「秋の鳴く虫展」



かんさつシートの一例

### 【誰もが楽しめる場】

動物園・水族園には子どもから大人、障害がある方、訪日外国人など、多様な人々が訪れます。来園した誰もが楽しめる場所であるように、対象と狙いが異なる様々な教育普及プログラムを充実させていきます。また、こうした取組を通じ、より多くの方を呼び込んでいきます。

#### ④ 集客力のある教育普及プログラムの強化

##### ▶取組計画

開園記念日や季節イベントにあわせた集客力のあるプログラムの整理・見直しを行い、新しいオンライン情報発信ツールも積極的に取り入れるとともに、来園者のニーズを考慮した魅力的なプログラム、かつ教育的なプログラムを強化します。

##### ▶主な実施項目

- 開園記念イベント
- サマーナイト@Tama Zoo
- 動物クイズラリー
- 都立動物園アフリカフェア
- 長寿動物お祝いイベント
- お正月イベント
- 干支の講演会、干支の特設展示

#### ⑤ 長期的で深い学び、また専門性の高い学びの充実

##### ▶取組計画

子どもを対象にしたシリーズものの教育普及プログラムや、より専門性の高い、希少動物の保全や身近な自然環境をテーマにした講演会など、多様な年齢層や、それぞれの興味関心に合わせた教育普及活動を強化します。

##### ▶主な実施項目

- オータムスクール（小学生対象）
- サイエンズカフェ（中学生・高校生対象）
- ムササビ観察会、初心者野鳥観察会、ホタル観察会（親子対象）
- 動物や自然に関する講演会（一般対象）
- 保全セミナー（一般対象）
- アフリカ講演会（一般対象）



## ⑥ 誰も取り残さない教育普及活動の推進

### ▶ 取組計画

地域の特別支援学校との連携など、障害がある方も含め誰もが学べる教育普及プログラムを充実させます。また、解説パネルの多言語化に取り組みます。

### ▶ 主な実施項目

- ドリームナイト・アット・ザ・ズー
- 地域の特別支援学校・盲学校等との連携
- 外国語併記の解説パネル



アフリカフェアでのイベント



ムササビ観察会

### 【動物の未来を考える場】

動物園・水族園は、地球上の動物とわたしたち人が共に生きる未来のために、学び、考え、行動する場です。その入口となる自然体験へつなげるフィールドプログラムを強化するとともに、希少動物の保全に貢献する、対象やテーマを工夫した多様な教育普及プログラムを充実させます。

#### ⑦ 環境学習プログラムの充実とズーストック種を活用した情報発信の強化

##### ▶ 取組計画

多様な展示種と多摩丘陵の緑豊かな自然を生かし、身近な環境も含む自然環境や生物多様性の重要性を学ぶ環境学習プログラム及びフィールドプログラムを展開します。また野生生物保全センターを中心に保全教育を推進するとともに、都立動物園水族園の保全活動を広く知らせる取組を行います。

##### ▶ 主な実施項目

- 保全講演会（野生生物保全センター オンライン講演会等）
- 生物多様性の日、世界ゾウの日等での情報発信
- 文化財ウィークでの情報発信
- 野鳥観察会・ホタル観察会・昆虫観察会・ムササビ観察会



保全をテーマにした講演会  
(オランウータン講演会)



「世界ゾウの日」における情報発信

### 【学校での学びをサポートする場】

学校教育との連携は、動物園・水族館の大切な取組の一つです。幼児から大学生まで年齢や学年に沿った体系的な教育普及プログラムを充実させ、学校教育との連携を強化します。

#### ⑧ 学校向けの動物観察プログラム・キャリアプログラム・各種教材の充実

##### ▶取組計画

多様な動物種の展示や他園にはない昆虫類の展示を生かし、生態系での関りや進化、保全などをテーマにした、より専門的な内容の動物観察プログラム、また昆虫とのふれあいプログラムを幼児から大学生・教員までを対象に展開します。また、プログラムを受けられない団体向けの貸し出し用パッケージ教材を充実させ、見学がより有意義になるようにサポートします。その他、博物館実習、職場体験、出張でのキャリア教育など、これからの環境学習の担い手に動物園の業務や社会的役割を学ぶ場を提供します。

##### ▶主な実施項目

- 動物観察や保全等をテーマにした団体向けプログラム
- 職場体験・職場訪問・インターンシップ等のキャリア教育支援プログラム
- 博物館実習・飼育実習等の実習受け入れ
- 授業に活かせる「動物園・水族園」講座（教員）
- 教員研修会の受入対応
- 貸出教材（動物ふしぎ発見ポケット、動画教材等）
- 出張授業



学校向けの動物観察プログラム



骨格をテーマにした教員対象セミナーの開催

### 【多様なネットワークのハブとなる場】

ボランティアとの協働を推進するとともに、動物園・水族園が中心となって様々な教育・文化施設、または鉄道事業者など周辺の施設や企業との連携を強め、効果的な教育普及活動を推進します。

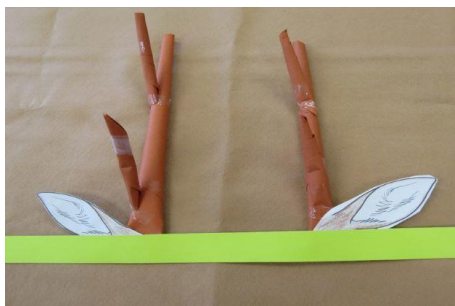
## ⑨ ボランティアとの協働を推進、地域との連携強化

### ▶ 取組計画

ボランティアと協働し、展示前ガイドを充実させて動物の生態とともに野生での現状や保全活動など多面的な情報提供を行います。また園内の雑木林の管理を行う NPO 法人与連携し、園内の自然環境を生かした教育普及プログラムに取り組みます。さらに地元の文化施設やアミューズメント施設、鉄道事業者と協力し、周辺の地域活性化につながるイベントを実施します。

### ▶ 主な実施項目

- 東京動物園ボランティアーズによるスポットガイド
- 東京動物園ボランティアーズとの研修会・連絡会の開催
- 駅や周辺施設、団体、企業との連携
- Visit Zoo 事業



ボランティアによる工作教室  
(どうぶつの「つ」をつくらう) 作品例



Visit Zoo 事業  
(都立動物園をめぐるクイズラリーシート)

### 【情報発信の拠点となる場】

動物園・水族園は、動物や自然環境に関連する情報発信の拠点として、多様な情報発信ツールを活用し、効果的な情報発信を行います。

#### ⑩ 多様な情報発信ツールを利用した効果的な情報発信

##### ▶ 取組計画

多様な地域（国）、分類群の動物種を有する動物園として、広報活動に力を入れるとともに、教育番組や科学雑誌等の取材を積極的に受け入れ、動物や自然環境に関する適切な情報を発信します。また、ホームページの他にも Twitter や YouTube 等の SNS を活用し、世界ゾウの日などの記念日も利用して、広く動物の魅力や保全の必要性を伝えていきます。

##### ▶ 主な実施項目

- ホームページ（東京ズーネット）での情報発信
- マスメディアを活用した広報活動
- プレスリリースや取材対応
- Twitter、YouTube での情報発信
- デジタルラリー、QR コードを活用した教育普及資料の開発



動物について楽しく学べるウェブサイト  
(おうちで楽しむ幼児向けのコンテンツ「Kids and Zoo」)

## 本計画に該当する確認指標・具体的な確認項目及び目標値一覧

	確認指標	具体的な確認項目	10年目目標値 (令和12年度)
取組 1 (再掲)	来園者の視点で常設展示や施設の魅力が向上した	展示改善の実施件数	190件 <sup>※1</sup>
	魅力的なプログラム、イベントが開催されている	利用者アンケートの調査結果	3.3
取組 2 (再掲)	多くの来園者が魅力を感じて訪れる施設になっている	年間来園者数	700万人 (4園合計 <sup>※2</sup> )
	多様な来園者を呼び込む取組がなされている	Twitter投稿件数	— <sup>※3</sup>
取組 3 (再掲)	誰もが快適に観覧できる環境を提供している	快適環境に向けた園内施設の維持管理実施件数	1,800件 <sup>※1</sup>
	来園者が満足している	利用者アンケートの調査結果	3.6
取組 4	地域への動物関連情報の提供が行われている	他団体との連携企画、地域イベント等の実施件数	20件
	自治体等の地域と連携した取組が進んでいる	地元警察・消防と連携して行った訓練の実施件数	1件
取組 5 (再掲)	多くの方に積極的に都立動物園や野生動物の情報を発信している	東京ズーネット投稿件数	180件
	園内外でICTなどの先端技術を活用した情報発信がされている	動画新規配信件数（ズーネットBB、YouTubeチャンネル）	1800件 <sup>※1</sup> (4園合計 <sup>※2</sup> )
取組 6 (再掲)	飼育職員による情報発信が強化されている	キーバーストックの実施件数	500件
	動物園を案内するガイドツアーのプログラムが充実している	ガイドツアーの実施件数	190件
取組 7 (再掲)	動物をテーマにした特設展・企画展が充実している	特設展・企画展の実施件数	10件
	東京都(伊豆諸島・小笠原諸島含む)に分布する野生動物に関する情報発信が強化されている	東京都に分布する野生動植物に関するズーネット投稿件数	110件 <sup>※1</sup> (4園合計 <sup>※2</sup> )
取組 8 (再掲)	園外のフィールドにおいて動物の魅力を伝えるプログラムを実施し、身近な野生動物への理解を促している	フィールドプログラムの実施件数	3件
	来園が困難な方などへの環境学習プログラムが充実している	団体プログラムの実施件数及び葛西臨海水族園の移動水族館の実施回数	15件
取組 9 (再掲)	将来の保全の担い手となりうる人材を育成している	教員セミナーの実施件数	4件
	教育的な効果が高い団体指導プログラムを実施している	学校団体向けプログラムの実施件数	200件
取組10 (再掲)	ボランティアの育成が進んでいる	ボランティア対象の研修会の実施件数	7件
	ボランティアとの協働による教育活動が行われている	ボランティアによる教育活動の実施件数	550件
取組11 (再掲)	希少種の飼育管理を適正に行い、繁殖が推進されている	国内外血統登録対象の繁殖種数	27種 <sup>※1</sup>
	多様な種を飼育し、飼育個体の情報を適正に管理している	国内外血統登録対象の飼育種数	37種
取組13 (再掲)	ズーストック種の繁殖が進んでいる	ズーストック計画で計画どおり繁殖に成功した種数	124種 <sup>※1</sup>
	ズーストック計画に基づき対象種が適切に維持管理されている	ズーストック種における「飼育繁殖」「保全情報」「普及啓発」の分野において、適切に推進されている取組数	378 <sup>※1</sup>
取組14 (再掲)	管理技術の向上により、動物を安全かつ健康的に飼育する環境が整っている	ハズバンドリートレーニングの到達度	— <sup>※3</sup>
	飼育動物の選択肢を増やし、正常な行動を引き出し、健康的に飼育する取組が進んでいる	展示施設におけるエンリッチメントの取組件数	— <sup>※3</sup>
取組17 (再掲)	大学・研究機関との共同研究により新たな知見が得られている	共同研究の実施件数	140件 <sup>※1</sup>
	野生動物保全の取組の必要性を広く発信している	講演会・シンポジウムの実施件数	8件
取組19 (再掲)	国内外の動物園・水族館、大学、研究機関とのネットワークが強化されている	国内外の動物園・水族館、大学、研究機関等との協定締結件数	10件 (4園合計 <sup>※2</sup> )
	飼育繁殖技術や展示の魅力向上のために、国際的な連携が進んでいる	海外との連携の中で行われた、会議・学会等への参加件数、動物交換、研修などの実施件数	4件

※1 10年目までの累積件数

※2 建設局所管の都立動物園・水族館

※3 新たな取組や、過去の十分な実績値の記録がないなど、現時点で適切な目標値の設定が困難な項目。取組状況を検証した上で目標値を設定する。